

まちを支える

～ごみの減量化・資源化を目指して～

坂城町ごみ減量化推進員会

坂城町ごみ減量化推進員会は、平成22年度に発足し、廃棄物の減量化・資源化を進めるため、町長から委嘱されており、現在13名で活動しています。

具体的な活動としては、生ごみの減量化・資源化を進めるため、各地区に出向いてダンボールコンポスト

を使った生ごみの堆肥化の実演、小学生の社会科学見学での環境学習、町文化祭でのごみの減量化・資源化の啓発活動、視察研修、スーパーやコンビニの店頭でのマイバック持参率調査などの活動を行っています。

こうした活動が認められ、昨年9月、長野県知事表彰の「令和3年度循環型社会形成推進功労者表彰」を

受賞しました。

しかしながら、当会の認知度は低く、依然として坂城町の一人当たりのごみの排出量が多い状況です。皆さまのご協力を得ながら、ごみ減量化・資源化のため、引き続き活動を継続してまいります。

一人一日、10グラム(フチト



小学生の環境学習

マト1個分)のごみを減らせば、坂城町全体で年間約50トンのごみの減量となります。日々の生活の中で、ごみの減量化・資源化に繋がることはいないか、今一度考えていただけたらと思います。



ダンボールコンポストの作り方・使い方

(会長 大池 令子)

つれづれに

▼「突然」とは、約束も計画も無視する。人は明日も来年も生きていることを前提に社会生活を営んでいる。

編集委員であった中島新一議員が、突然亡くなった。彼にも約束や計画があったに違いない。日々一日一日が大切な「時」と、私に思い起こさせてくれた。

▼今年の夏は思いやられる。日本の各都市で6月としては過去最高気温を記録。群馬県伊勢崎市では40.2℃。

▼梅雨のない北海道でも近い将来、梅雨ははじまるといふ。イタリアの山では氷河が崩落。ロシアはウクライナで数多くの人の命を奪うだけでなく、地球環境をも悪化させている。

▼地球温暖化対策は喫緊の課題である。世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して、2℃より低く抑え、2050年までに1.5℃にしなければならぬ。日本政府の対策は何と悠長なことか。(大森 茂彦)

発行責任者 議長 小宮山定彦
議会報編集委員会

委員長 大森 茂彦
副委員長 山城 峻一
委員 吉川まゆみ
株津 明子
大日向進也